



PTAおやこあんぜん会

発行／(公財)富山県PTA親子安全会 編集／広報委員会

富山市舟橋北町7-1 富山県教育文化会館内 TEL (076)433-2094 FAX (076)433-2096 E-mail anzenkai@ch.mbn.or.jp

親子安全会主催の講演会を開催しました(講演会報告)

令和4年11月26日 県民会館ホール

公益財団法人富山県PTA親子安全会講演会(第10回富山県PTA連合会会員大会)

伊藤 真波 さん「あきらめない心」

(日本初の義手の看護師、北京・ロンドンパラリンピック競泳日本代表)

①看護師になりたい

私が看護師を目指したのは、「看護師になってお母さんを助けよう」という思いから。勉強は苦手で、小学校の6年間ランドセルの中身を空っぽにして学校に行っていた。飽きっぽい性格だったが、習い事として水泳とバイオリンに出会ったのはこの頃。中学校では会社員から教員に転身し、30歳で赴任してきた村松先生と出会った。村松先生は真面目な性格から生徒から馬鹿にされたり暴力を振るわれたりしたが、真剣に生徒たちと向き合ってくれた。私にも先生の熱意が伝わり、「こんな大人になりたい」と勉強を頑張り、看護科のある高校へ進学することができた。



伊藤さんは看護専門学校入学後、交通事故に遭い右腕を切断しました。しかし、大切な人たちからの励みや、義手の製作、自身の努力によって、日本初の片腕の看護師となりました。

またパラリンピックの競泳日本代表選手として、100m平泳ぎで北京パラリンピック4位、ロンドンパラリンピック8位に入賞。2010年アジアパラリンピックでは2位となりました。

現在は神戸百年記念病院を退職し、育児をしながら講演活動をしておられます。また、義手を使っているバイオリンの演奏も行っています。



②バイクの事故で右腕を失う

父の影響で乗り始めたバイク。どんなときも応援してくれた母が、バイクに乗ることだけはずっと反対だった。母とのわだかまりは解けないまま、大きなトラックとの交通事故に遭い、右腕だけでなく顔にも大けがを負った。なんとか利き腕である左腕を残したい思いで治療に挑むが、想像を絶する辛い治療、受け入れがたい現実に、両親へ八つ当たりをしてしまう。それでも逃げずに付き添ってくれた母。母はどんなことがあっても涙を流さず笑顔で接してくれた。トラックのタイヤに巻き込まれ、引きずられてしまった右腕の状態は良くなり、遂には切断する決断をする。成人式を二か月後に控える中、右腕を失った。

④この手に教えてもらったこと

「スポーツの力を借りて強い人になりたい」思いから、看護師を続けながら障害者水泳を本格的に始めた。地域の方々に助けをもらい、日本代表になることができた。

私の結婚はうまくは進まなかった。障害をもったお嫁さんを自分の家族に受け入れるのはどれだけ覚悟が要ることか。主人は諦めることなく、家族を説得してくれた。現在3姉妹の育児をしている。私はこの手にたくさんのことを教えてもらっている。人は障害があるとかないとか関係無く、他人には言えない心の傷を何かしら抱えて生きている。でも誰もそれを口にはしない。私にも皆さんにも、大事な人、守りたい人がいる、守ってくれる人がいる。それは当たり前かもしれない。でも、かけがえのない毎日を大切に送りたいと思う。

③再び看護師をめざして

看護学校へ復学をし、夢の実現に向け再び進み出した。復学のためには義手製作が必要だった。そのために入院した病院で出会ったのは、自分の障害をさらけ出すことのできる人達だった。私は右腕が無いことを言い訳にしていたが、これからは何かにぶつかっても自分の力で這い上がれる強い人になりたい、負けない自分になりたい、と思い始めた。仲間のサポートもあって国家試験に無事合格した。

第二の人生、片腕の看護師として恩返しをしたい思いで神戸の病院に勤務。初めて私の姿を見た患者さんは驚いた。だから、まず処置をすることよりも患者さんとの信頼関係を築くことを心掛けた。

講演会の感想

- ・涙しながら聴きました。特に事故に遭われた時のご両親のお話が心に残っています。「助けて欲しいときには思いきって弱音を言ってもいい」など自分に置き換えて頑張りたいと思います。
- ・負けない心で自分と周りの人が幸せになれるようにすることが大切だと思い、今日からの生き方を見直そうと思いました。バイオリンもこんなに上手に弾けるのだと驚きました。ご家族、お子様みんな可愛かった！
- ・障害があろうが無かろうが、皆何かしら抱えているとおっしゃっていたのが印象に残っています。ネガティブになりそうな時には“ポジティブ”に考えを改めるよう意識していきたいと思いました。
- ・親子のあり方を考える良い機会となりました。伊藤さんの発表はご本人だけでなく、周囲の人(家族)についての紹介もつつみ隠さず話をして頂いたので、心に響く発表でした。

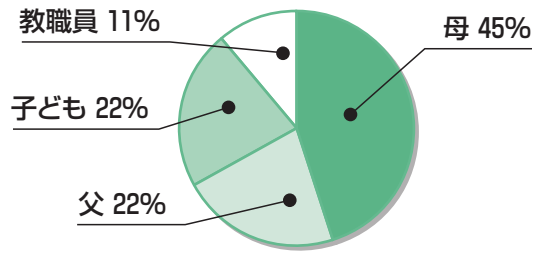
災害報告〈2022〉

親子安全会ではPTA活動中のけがや病気などに見舞金を支給しております。2022年度の見舞金の申請は9件と昨年度に比べ大きく増加しました(2021年度は3件)。PTA活動の自粛が緩和されてきているためであると考えられ、特に昨年度は0件だった「親子活動」での災害が、今年度は4件となりました。コロナ禍では親子活動でのスポーツやレクリエーションが控えられていましたが復活し、骨折や打撲などのけがが多かったためです。久しぶりで思わず張り切ってしまうたり、安全面で配慮すべきところを忘れていたりするようです。子どもと一緒に保護者の方々も準備運動等を入念に行い、また、けがのないようなルールを工夫しましょう。これからも過去中止になっていた活動については、久しぶりということではけがが増える可能性があるため気を付けてください。

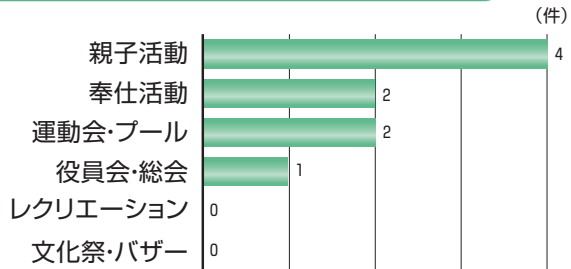
PTAあぜんキーワード 見舞金(共済給付金)

- ★安全会ではこうしたPTA活動中のけがに見舞金を給付しています。見舞金の請求は、完治するまで待たなくても手続きできます。また、通院1回から支給されます。
- ★他から治療費を受給したり、健康保険で診察してもらったり、他の傷害保険で給付を受けたりしたときであっても、給付の対象となります。
- ★災害発生より3年以内なら請求可能です!

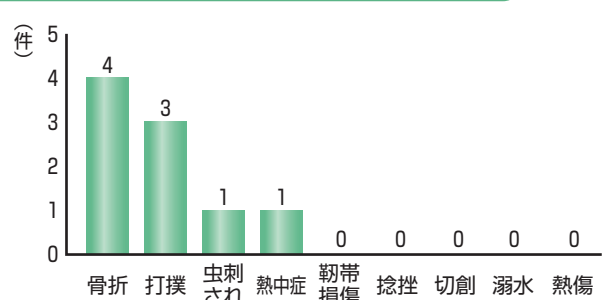
■受給者別割合(計9人)



■活動・行事別件数



■傷病名別件数



皆様からたくさんの寄付金が寄せられています!

PTA親子安全会では、修学への意欲をもつ子どもたちのより一層の支えとなるよう、就学奨励金を給付しています。この就学奨励金に充てる目的で、皆様からの寄付を募集しています。今年度は16件35万円のご寄付をいただきました。今後も引き続き寄付金を募集していますので、ご協力をお願いいたします。

～ご寄付いただいた方々の一覧～(順不同 敬称略) 昨年度の広報紙で紹介できなかった方を含む

〈法人〉

- (株)オートボディテクノ富山
- (株)ホンダセンター富山
- 新高清掃株式会社
- (株)五万石
- (有)協和不動産
- (株)カワセ

- 代表取締役 山崎 義之
- 代表取締役 青野 信明
- 代表取締役 金井 武史
- 代表取締役 安井 恒夫
- 代表取締役 大久保勝弘
- 代表取締役 河瀬 聡

- (有)サンクリーン TOU&ME
- 医療法人 おざわ歯科医院
- キンコー樹脂工業株式会社
- あおば税理士事務所
- 松島工業株式会社
- (有)こえだでんき
- サンクリーンマテリアル株式会社

- 代表取締役 竹本 伸生
- 理事長 小澤真理子
- 代表取締役 蓮池 泰洋
- 代表取締役 肥田 達巳
- 代表取締役 杉森 栄樹

〈個人〉

- 林 由希
- 高畠 和子
- 村西多美子

令和四年度 広報委員紹介

- 委員長 寺内 真
- (常務理事) 朝日
- 委員 袖野 哲都(理事)入善
- 委員 稲場 康晴(理事)滑川
- 委員 堀田 博志(理事)上市
- 委員 川尻 将也(理事)立山
- 委員 吉川 満博(理事)富山
- 委員 佐伯 真未(理事)富山
- 委員 豆川 公彦(理事)射水
- 委員 水野 忠司

編集後記

新型コロナウイルス感染症についての分類見直しやマスク無し生活への議論が始まり、子どもたちを取り巻く環境も少しずつ従来の形に戻ってきました。学校行事も従来と同じ形で行われPTAや地域の行事も再開されるものが増えてきました。子どもたちが過ごす時間はかけがえないものです。その学年、その年齢、その環境でしか経験できないことがたくさんあります。全ての子どもたちが誰一人置き去りにされることなくたくさんさんの経験ができるよう、私たち大人は環境を整えなければなりません。

まだコロナ禍は終わりませんが、何ごとにおいても「できない理由」を探すより「できる方法」を考えていきたいと思えます。

(広報委員 吉川 満博)

